令和５年度シラバス　書道Ⅰ　　学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

教科（科目）	芸術Ⅰ（書道Ⅰ）	単位数	２単位	学年	２学年
使用教科書	書Ⅰ（教育図書）				
副教材	なし				

１　学習目標

書道の幅広い活動を通して、書に関する見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の文字や書、書の伝統と文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

（1）書の表現の方法や形式、多様性などについて幅広く理解するとともに、書写能力の向上を図り、書の伝統に基づき、効果的に表現するための基礎的な技能を身に付けるようにする。

（2）書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて構想し表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい捉えたりすることができるようにする。

（3）主体的に書の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり書を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、書の伝統と文化に親しみ、書を通して心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

２　指導の重点

（1）漢字仮名交じりの書では、身近なことばや、詩歌などを題材として学習する。

（2）漢字の書では、楷書・行書を中心に、様々な書体や書風について学習する。

（3）仮名の書では、その成立を理解し、その美しさと技法を学習する。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。

４　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能　a	思考・判断・表現　b	主体的に学習に取り組む態度　c
評価の観点	・書の表現の方法や形式、書表現の多様性について、書の創造的活動を通して理解を深めている。 ・書の伝統に基づき、作品を効果的・創造的に表現するために必要な技能を身に付け、表している。	・書のよさや美しさを感受し、意図に基づいて創造的に構想し個性豊かに表現を工夫したり、作品や書の伝統と文化の意味や価値を考え、書の美を味わい深く捉えたりしている。	・書の伝統と文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造的活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・課題や作品の確認 ・レポートやプリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題や作品の確認 ・レポートやプリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以上の観点を踏まえ、 ・課題や作品の確認 ・レポートやプリントなどの内容の確認 などから、評価します。

5　学習計画（１単位時間：５５分）

月	単元名	教材	主要学習領域	学習活動	時間	評価の観点	評価方法
4	導入 漢字仮名 交じりの書	ことばを 書く	書の伝統と文化 用具用材の理解 執筆法、用筆法	・書写から書道へ ・書の歴史 ・書美と書表現の理解	6	c b a	制作作品
5 6	漢字の書	楷書の古典 北魏・唐代 の楷書	楷書の鑑賞と臨書	楷書の多様な書風を鑑賞し、用筆法や字形の違いを理解する。	14	a、b、c	制作作品 鑑賞ｼｰﾄ
7 8 9	漢字の書	行書の古典 蘭亭序など	行書の鑑賞と臨書	行書の特徴を理解し、その表現の技能を身につける。	16	a、b、c	制作作品 鑑賞ｼｰﾄ
10	漢字の書	創作作品	楷書と行書による創作	半紙以上の大きな紙面に、楷書と行書による創作を行う。	6	a、b、c	制作作品 制作ｼｰﾄ
11	篆刻の学習	篆刻用具	落款印の作成	印の歴史を学び、篆刻の手順と技法の理解を深める。	6	a、b、c	制作作品 制作ｼｰﾄ
12	仮名の書	仮名の古典	仮名の成立と書美	仮名の成立を理解し、その書美を実践する。	4	a、b、c	制作作品
1	漢字仮名 交じりの書	名言、詩	漢字仮名交じり の書と書表現	今までに習得してきた書表現を生かし、身近なことばや詩文に親しむ。	6	a、b、c	制作作品
2 3	作品制作	古典臨書 創作作品	課題研究 書表現の実践	１年間の集大成として自主課題の作品制作をする。	6	a、b、c	制作作品
					64		

6　課題・提出物等

・制作した作品。制作シート・鑑賞シートなど。

7　担当者からの一言

「書写」とは違い、芸術教科として学ぶ「書道」では、長い歴史や風土の中で生まれた様々な書体を学びます。学習内容としては、書体の変遷の過程において、文字文化にまで発展させた先人たちが残した名筆（古典）を鑑賞し、臨書することが基本となります。その古典の種類は、綺麗に整っているものばかりではなく、一見、地味で素朴なものから、力強く、豪快で見る者に訴えかけるものなど、まさに多種多様です。それぞれがもつ魅力を感じられるような幅広い視野を養うことによって、表現力や感性を高めることができます。

より多くの名筆から多様な書表現を吸収し、更に仲間達と作品を批評・鑑賞し合うことによって、各々の個性と創造力を豊かにしましょう。

創作活動においては、大胆な発想と、表現の工夫によって作品を生み出す過程を大切にし、創り上げた時の感動を味わうことができるような力を身につけましょう。（担当：吉荒）

令和５年度シラバス　美術Ⅰ

学番６３　　新潟県立柏崎総合高等学校

教科（科目）	芸術（美術Ⅰ）	単位数	２単位	学年	２学年
使用教科書	高校生の美術１（日本文教出版）				

１　学習目標

美術の幅広い創造活動を通して造形的な見方・考え方を働かせ、美的体験を重ね、生活や社会の中の美術や美術文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

(1) 対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めるとともに意図に応じ表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。
(2) 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創意工夫、美術の働きなどについて考え、主題を生成し創造的に発想し構想を練ったり、価値意識をもって美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。
(3) 主体的に美術の幅広い創造活動に取り組み、生涯にわたり美術を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、美術文化に親しみ、心豊かな生活や社会を創造していく態度を養う。

２　指導の重点

①美術の幅広い創造活動や鑑賞に親しみ、そして取り組む。
②創造する事の価値を捉え、自己や他者の作品などに表れている創造性を尊重する態度の形成。
③表現方法を創意工夫し、発想や構想したことを基に創造的に表す技能を身につける。
④主題の生成から表現の確認及び完成に至る過程を通し、自分の良さを発見し喜びを味わう。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発送や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。

４　評価規準と評価方法

	評価は次の観点から行います。		
	知識・技能 a	思考・判断・表現 b	主体的に学習に取り組む態度 c
評価の観点	・対象や事象を捉える造形的な視点について理解を深めている。 ・創造的な美術の表現をするために必要な技能を身に付け、意図に応じて表現方法を創意工夫し、表している。	造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫、美術の働きなどについて考えるとともに、主題を生成し発想や構想を練ったり、美術や美術文化に対する見方や感じ方を深めたりしている。	美術や美術文化と豊かに関わり主体的に表現及び鑑賞の創造活動に取り組もうとしている。
評価方法	以下の観点を踏まえ、 ・授業内課題作品の確認 ・レポートや授業内プリントなどの内容の確認 などから、評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業内の質問や発言の観察 ・授業内課題作品とそれに伴うエスキースの確認 などから、評価します。	以下の観点を踏まえ、 ・授業内の質問や発言の観察 ・授業内課題作品とそれに伴うエスキースの確認 ・レポートや授業内プリントなどの内容の確認 などから、評価します。

５　学習計画（１単位時間：５５分授業）

計６４時間（合計時間や時間配分は学校行事・ローテーションにより変動する）主要学習領域は全て表現と鑑賞。

月	時間	単元名	教材	学習活動（指導内容）	評価の観点	評価方法
4	2	ガイダンス 自己紹介 イラスト	デザイン	・美術とは何か ・自身を言葉ではなく絵で自己紹介する	b c	提出作品（思考の確認） エスキース（記述の点検） 授業内態度（行動の確認）
4～6	12	色彩構成と切り絵	色彩構成	・明暗、色彩、彩度対比を使用する ・色から感じ取れるイメージについて学ぶ ・色の対比やそれに伴う色の見え方を学ぶ	a b c	ワークシートと提出作品（練習用課題への取り組みと技能の確認） エスキース（思考の確認）（記述の点検） 授業態度（行動の確認）
6～8	10	鳥獣戯画	鑑賞 絵画	・鳥獣戯画や絵巻物を鑑賞し、学ぶ ・筆使いやタッチを学び、自身の作品へ取り入れる	a b c	提出作品（練習プリントによる実技と知識の確認と点検） エスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
8～10	12	アニメーションの基礎	映像 メディア	・フリップブックを用いてアニメーションの基礎を学ぶ ・映像表現における動きなどの視覚的要素について考え、創造的な表現の構想を練る	a b c	提出作品（練習作品による実技と知識の確認と点検） アイデアスケッチとエスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
10～12	10	ロゴデザイン	デザイン 絵画	・企業のロゴデザインを考える ・ロゴデザインの目的や条件、美しさについて学ぶ	a b c	提出作品（技能の確認） アイデアスケッチとエスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
12～2	10	自分の国と建国記念切手	デザイン	・自身で新たな国を想像し、国旗や歴史などの詳細を考える ・記念切手を作成する際に、切手の役割について考える ・作品の発表と鑑賞	a b c	提出作品（実技の確認） ワークシート（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）
2～3	8	自分を描く	絵画	・自分自身のパーツを一部デッサンし作品とする。 ・全身クロッキーを行い、素早くものの形を捉える目を養う。	a b c	提出作品（練習プリントによる実技と知識の確認と点検） エスキース（思考の確認と記述の点検） 授業態度（行動の確認）

６　課題・提出物等

作品／クロッキー、アイデアスケッチ、ラフスケッチ／課題、感想、アンケート／鑑賞レポート／自習課題

７　担当者からの一言

高校の美術（芸術）の授業は、ほぼこの講座のみである。授業を通して創造力を養い、美術の楽しさや美術に親しむ心を育くみ、生涯にわたり美術を愛好し、心豊かに生活を送ることを心掛るとは何かについて学んで欲しい。

（担当：田村千晴）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス（芸術）

教科（科目）	芸術（美術Ⅱ）	単位数	２単位	学年（コース）	３年次
使用教科書	高校生の美術２（日本文教）				
副教材等	なし				

１　学習目標

美術Ⅰの創造活動を通して、美的体験を豊かにし、生涯にわたり美術を愛好する心情を育てるとともに、さらに感性を高め、創造的な表現と鑑賞の能力を伸ばす。また、美術文化についての理解を深める。

２　指導の重点

①美術の幅広い創造活動や鑑賞に親しみ、そして取り組む。
②創造活動を通し表現することの楽しさを経験するとともにその達成感を味わう。
③多くの作品を鑑賞し、美術作品のよさや美しさ、作品の意図することを理解し、表現の工夫、日常生活への反映。

３　学習計画

学期	区	主要学習領域	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	ガイダンス	造形、美、芸術について考える	2	課題提出 授業の取組み
	中間Ⅱ	鉛筆デッサン 鉛筆素描	デッサンの意味 デッサンの目的 モチーフを見て 構想を練る	15	作品提出 ｱｲﾃﾞｨｱｽｹｯﾁ 授業の取組み
	期末	ポスター制作	わかりやすい構図 形態描写(比例･釣合) 構造把握、比例とプロポーション 作品の展示と鑑賞	18	作品提出 ｱｲﾃﾞｨｱｽｹｯﾁ 授業の取組み
後期	中間	新商品の企画構想	ペンのデザインを考える 色が受け手に与える印象､感情の把握 日常で目にする既存の商品がいかに 思案を重ねられているかに気付く 作品の展示と鑑賞	17	作品 授業の取組み
	期末	自主制作	自己を見つめる 今までの復習 作品の展示と鑑賞	18	作品提出 ｱｲﾃﾞｨｱｽｹｯﾁ 授業の取組み

計７０時間（５０分授業）

４　課題・提出物等

各課題作品とそのアイディアスケッチ、完成作品の感想。

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①美術への関心･意欲･態度	②発想や構想の能力	③創造的な技能	④鑑賞の能力
多様な表現方法や美術文化に関心を持ち､主体的に個性豊かな表現や鑑賞の創造活動に取り組もうとする。	感性や想像力をはたらかかせて､創造的な表現の構想を練っている。	主題に合った表現方法を工夫し､創造的に表現している。	美術作品などの表現の工夫や美術文化などを理解し､そのよさや美しさを味わっている。

６　担当者からの一言

上手い、下手は重要ではありません。一生懸命課題に取り組んでいる姿勢が大切です。美術は美術館にあるだけではなく身の回りや、その自然を観察することによって生み出されます。授業でそれを体験してください。

（担当：田村）

学番６３　新潟県立柏崎総合高等学校

令和５年度シラバス　（芸術）

教科（科目）	芸術（音楽Ⅰ）	単位数	２単位	学年（コース）	２年次
使用教科書	高校生の音楽Ⅰ　（教育芸術社）				
副教材等	音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）				

１　学習目標

音楽の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と幅広く関わる資質・能力を次のとおり育成する。

（１）曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。

（２）自己のイメージをもって音楽表現を工夫することや、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴くことができるようにする。

（３）主体的・協働的に音楽の幅広い活動に取り組み、生涯にわたり音楽を愛好する心情を育むとともに、感性を高め、音楽文化に親しみ、音楽によって生活や社会を明るく豊かなものにしていく態度を養う。

２　指導の重点

１　基礎知識の定着

２　いろいろな音楽の演奏形態、広いジャンルの音楽に接する。

３　評価の観点の趣旨

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。 ・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱，器楽，創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

４　評価基準と評価方法

評価は次の観点から行います。

	知識・技能ａ	思考・判断・表現ｂ	主体的に学習に取り組む態度ｃ
評価の観点	曲想と音楽の構造や文化的・歴史的背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解している。創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付け、歌唱、器楽、創作で表している。	音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きを感受しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考え、どのように表すかについて表現意図をもったり、音楽を評価しながらよさや美しさを自ら味わって聴いたりしている。	主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。
評価方法	以上の観点を踏まえ、 ・授業の取組（授業態度や発表の様子、学習や練習活動への参加状況など） ・ワークシートの記載内容とその提出状況 ・実技テスト、筆記テスト などから、総合的に評価します。		

５　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価の観点	評価方法
前期	中間Ⅰ	・楽典 ・ｷﾞﾀｰとﾘｺｰﾀﾞｰのｱﾝｻﾝﾌﾞﾙ	・基礎的な知識を身に付ける。 ・ｷﾞﾀｰのｺｰﾄﾞをﾏｽﾀｰし、発表。	11	a,b,c	実技ﾃｽﾄ 発表時に採点
	中間Ⅱ	・ﾘｽﾞﾑ学習	・ｽﾃｨｯｸを使いﾘｽﾞﾑ打ち。	12	a,b,c	筆記ﾃｽﾄ 実技ﾃｽﾄ
	期末	・歌唱（合唱）	・体を使って発声することを学び、ハーモニーを体得する。 ・瑞穂祭に向けて、音楽を高める。	12	a,b,c	発表時に採点
後期	中間	①音楽史・鑑賞 ②外国歌曲（独唱）	・バロック、古典、ロマン、近代それぞれの作曲家について学び曲を鑑賞する。 ・原語で歌唱する	17	a,b,c	ノート提出 実技ﾃｽﾄ
	期末	自由なコンサート ・創作	・独奏もしくは３人以内のアンサンブルで、選曲、変奏、アレンジ、練習、発表する。	18	a,b,c	実技ﾃｽﾄ　他

計 70 時間 （50 分授業）

６　課題・提出物等

ノート提出

７　担当者からの一言

各自、得意・不得意分野があるので、なるべく偏り無く学習し、いろいろな楽器を経験させたいと考えています。（担当：小林）

令和５年度シラバス（芸術）

教科（科目）	芸術（音楽Ⅱ）	単位数	２単位	学年（コース）	３年次
使用教科書	高校生の音楽Ⅱ（教育芸術社）				
副教材等	音楽の鑑賞資料と基礎学習（教育芸術社）				

１　学習目標

表現する喜びとともに、より完成度の高い音楽を体験することにより精神性を深める。

２　指導の重点

・いろいろな音楽の演奏形態、広いジャンルの音楽に接する。
・音楽を仕上げるための技能を身につけ、音楽を高める意識を持つ。
・自ら積極的に発表し、表現する。

３　学習計画

学期	区	単元（主要学習領域）	学習活動（指導内容）	時間	評価方法
前期	中間Ⅰ	・リズム学習 ・鑑賞	・パーカッションのみを使いグループ別に演奏発表。 ・ビデオ鑑賞(ドラムサークル)。 ・ブラームスとシューマンについて学び鑑賞する。	11	演奏発表時にテスト
	中間Ⅱ	・合奏 ・歌唱	・リコーダー、ギターの合奏。 ・日本歌曲を歌う。	12	
	期末	・鑑賞 ・合唱	・現代曲について学ぶ。 ・みずほ祭に向けての合唱練習	12	ノート提出
後期	中間	・合唱 ・楽典	・ハーモニーをより美しくするための発声、響きあうことのすばらしさを体得。 ・調性、和音について学ぶ。	17	ノート提出 筆記テスト
	期末	・ハンドベル	・ハンドベルの美しい音色と演奏する楽しさを味わう。	18	実技ﾃｽﾄ

計 70 時間（50 分授業）

４　課題・提出物等

ノート提出

５　評価規準と評価方法（評価は次の観点から行います。）

①音楽への関心・意欲・態度	②音楽表現の創意工夫	③音楽表現の技能	④鑑賞の能力
・まじめに取り組んでいるか。 ・喜びを持って音楽に向かい、音楽を高めていくことに意欲的である。	・より良い発表をするための工夫ができる。	・生き生きと取り組み、自分の内面と向き合える。 ・自分なりの努力をし、喜びを持って発表できる。	・基礎的な楽典を理解し、楽譜が分かる。 ・音楽史の流れの中で、時代背景を理解しつつ鑑賞できる。

６　担当者からの一言

音楽Ⅰの学習の積み重ねを土台として、さらに音楽の専門性を高めるようにしましょう。
生涯にわたって音楽に親しみ、音楽を通じて自己の人生を豊かにしていってほしいです。（担当：小林）